



株式会社かんでんエルハート

〒559-0023 大阪市住之江区泉1-1-110-58 TEL 06-6686-6874

知的障害者のための各種の取組み 視覚障害者の情報バリアフリーへの取組み

事業の概要

■ 沿革 平成5年、大阪府、大阪市、関西電力による第三セクター方式で、知的障害者や重度身体障害者の雇用を推進させるために設立された。あらゆる障害者に電気事業の枠を越えた多彩な職場を提供している。平成5年、障害者28名、健常者15名でスタート。以降順次採用を行い、現在、障害者67名雇用している。

■ 従業員数 105名 うち障害者67名（平成11年12月31日現在）

視覚障害者	聴覚障害者	肢体不自由者	内部障害者	知的障害者	精神障害者	その他
8 (8)	5 (4)	14 (14)	1 (1)	39 (6)	—	—

()内は重度障害者

■ 事業内容 花卉栽培・販売、印刷製本、産業マッサージ、ノベルティ商品の販売他

改善の要約

テーマ1

社内連絡便誤発送の再発防止

知的障害者9名が従事する社内連絡便の発送業務。さまざまな間違いが原因で誤発送されることがあったが、使用する道具を発送先ごとに色分けした。

テーマ2

お客さまサービス向上のための教育・訓練の改善

お客さまへのサービス向上のために、メールサービス関係専門教育を実施。

テーマ3

職場の健康衛生増進

朝礼時にストレッチ体操を導入し、リーダーを知的障害者による当番制とした。

テーマ4

視覚障害者の情報バリアフリーへの取組み

情報バリアフリーならびに情報共有化・業務効率化の実現のために視覚障害者用WindowsパソコンとLANを導入し、教育を実施。

改善の概要

テーマ 1

社内連絡便誤発送の再発防止の為の改善

改善の背景

メールサービス課として、本店・文書管理センターからの社内連絡便を4社の支店・本店直轄工事所建設所宛に発送。その際、袋と中身の間違い、袋と伝票（運送会社専用）の間違いが原因で誤発送されることがあった。

従事者：知的障害者9名、健常者1名

改善の詳細

色分けで誤発送を防止

支社ごとに色を決め、支社ごとの連絡便袋・ポスト・伝票を同じ色で統一した。



改善前



改善後

改善の効果

- 1 誤発送は皆無となった。
- 2 誤発送に対する意識の向上が図られた。
- 3 仕事が迅速・正確に行えるようになった。

テーマ 2

お客さまサービス向上のための教育・訓練の改善

改善の背景

メールサービス課として、お客さまへのサービス向上のため、次のようなスキルアップ、改善等が必要と考えられた。

- 1 業務処理レベルの向上
- 2 迅速・確実な業務処理
- 3 業務拡大に伴う知識の付与（トナー回収、宅配取次）
- 4 郵便物・社内連絡便等の仕分け誤りの防止（減少）
- 5 収益のアップ

メールサービス課従事者：知的障害者11名、肢体障害者2名、健常者5名

改善の詳細

メールサービス関係専門教育を実施した。

平成11年度 メールサービス関係専門教育

	教育名	実施概要
専門教育	組織改正関連	組織改正に伴う変更内容の周知
専門教育	各支店への配送ルート	配送ルート(到着時刻含む)の把握
専門教育	郵便局見学(社外見学)	郵便局の仕事を理解
専門教育	国内郵便の仕組みと種類	郵便の発送と受信方法の習得
専門教育	郵便料金	郵便料金業務の処理方法の習得
専門教育	国際郵便のしくみ	国際郵便の仕組みと種類の把握
専門教育	クリスマスカード	差出方法と差出期限についての理解

改善の効果

教育実施後のアンケートから、仕事への意識の向上が見られた。

テーマ 3

職場の健康衛生増進

改善の背景

職場が狭くて体操できる場所がなかったこと、体操を特に必要と意識していなかったが、朝礼時にストレッチを導入することにした。

改善の詳細

平成11年1月 ストレッチを導入(リーダーは経験者)。

平成11年4月 朝礼当番(知的障害者)がリーダーとなって実施。

平成12年1月 みんなの体操を実施(郵政省簡易保険局・NHKのビデオを使用)。



ストレッチ風景



みんなの体操風景(ビデオ放送中)

改善の効果

- 体を動かすこと・声を出すことで、爽快になり作業効率が向上した。
- 知的障害者が当番をすることで、リードすることを自覚できた。

テーマ 4

視覚障害者の情報バリアフリーへの取り組み

ーヘルスキーパーへのWindows パソコンとLANの導入による情報バリアフリーならびに情報共有化・業務効率化の推進ー

改善の背景

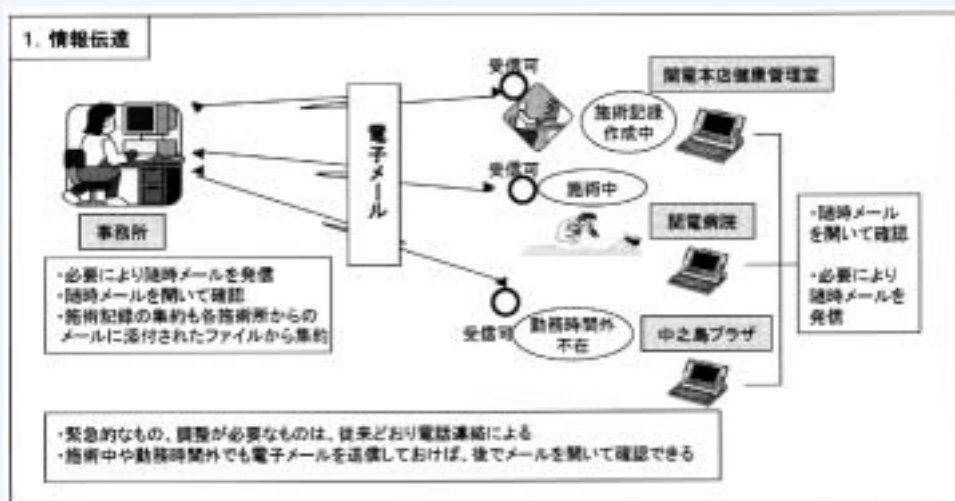
ヘルスケア課内の事務所と3箇所の施術所が対象。すべて離れた場所にあり、勤務時間や施術時間も異なる。事務所と施術所のヘルスキーパー、ヘルスキーパー間の情報の伝達に時間がかかり、一部にしか伝わらないなどの問題があった。手渡しの必要なものは拡大コピーやフロッピーディスク、点字への変換を行って手渡していた。

そこで、LAN ならびにWindows パソコン利用による電子メールを導入することにした。しかし、視覚障害者にとって、視覚による操作中心のWindows パソコンを使いこなすことが課題であった。

従事者：視覚障害者8名、肢体不自由者1名、健常者1名（事務所・施術所3箇所の合計）

改善の詳細

電話での連絡から、全社電子メールの利用へ



視覚障害者用ハード・ソフト使用のための教育の実施

各施術所ごとに、実操作中心に教育を行った。従来からMS-DOS パソコンを使用していたので、要点を絞った教育で理解が得られた。

改善の効果

視覚障害者に合わせたパソコンの設定

- 1 音声読み上げソフトの導入
- 2 マウス操作からキーボード操作へ
 - ・ソフトウェアごとに任意の英数字を1文字割り当て、ワンアクションでソフトウェアが立ち上がるようにした。
 - ・通常利用するソフトとファイルを1つのフォルダにまとめ、スタートメニューから簡単に選べるようにした。
 - ・すべての操作をキーボードのショートカットキー操作だけで行えるようにした。
- 3 設定変更による保存先の統一
 - ・設定変更により、使用するソフトの保存先を統一。ファイルを開くときや保存するときのキー操作を極力なくすようにした。
- 4 画面表示文字の大文字化
 - ・通常の文字の1.5倍に拡大して表示した。

1 ヘルスキーパーへの情報連絡用資料作成業務の効率化

点字への変換作業、点字プリンタへの出力作業、連絡内容の拡大コピーの作業時間を削減できた。

2 各種資料の運搬マンパワーの削減

電子メールにより、随時届ける必要がなくなった。

3 他の職場とのコミュニケーションを自由に図ることができ、情報のバリアフリー化が進んだ。

4 電子メールにより、タイムリーなコミュニケーションが図られるようになった。

5 ヘルスキーパー間の情報伝達がやりやすくなり、知識、スキルの水平展開が図られるようになった。

6 連絡が間違いなく伝わるようになった。

7 勤務時間・施術時間が違っても、一度に連絡ができるようになった。

8 施術記録のフロッピーを集めてくる必要がなくなり、集約に要する時間が短縮された。